市営住宅の建替・ごみ処理の見直し
国保料の引き下げ・浸水対策の推進

15年度 決算認定に賛成
市民の命・くらしを守る市政への転換を評価

決算審査特別委員会が10月11日から14日までの４日間行われました。今回は15年度の決算認定審査であり、北川市政の一年目の行財政運営予算執行を審査するものとなりました。

日本共産党からは太田・西田議員が委員として審査しました。

日本共産党は北川市政のもとで、どのように市政運営が変わったのか。そしてその変化が市民にとって良いものとなっているのかを視点に審査を行いました。

その結果15年度決算認定に賛成討論を行いました。数十年ぶりの出来事となりました。賛成の理由は大きくは４つです。

１つ目は、市政運営において、市民の声を聞く姿勢が示されたことです。

前市政の下では、市民からの懇談の要望をうけても断り続ける。拒否をする姿勢が強く示されていました。

しかし、北川市政の下で15年度は市長部局や教育委員会との市民団体との懇談が行われました。市民からも喜びの声を聞いています。

２つ目は、寝屋川市政の長年の課題となっているごみ処理の問題と市営住宅の再編計画を大きく見直したことです。

ゴミ処理計画は現在の廃プラのマテリアルリサイクルからサーマルリサイクルへの転換が示されたこと。

市営住宅の建替計画は、全て現地建て替えが基本であった計画を寝屋川市内全域に市営住宅を広げる方向が示され、契約まで完了していた計画を半分に縮小しました。

３つ目は、子どもを守ることが強く打ち出され、子育て支援策の充実です。

子ども医療費助成制度が高校卒業まで対象が拡大されました。また、保育新制度で保育料が上がらないよう減免制度が実施されました。

昨年夏の中学生の事件を受けて早急に打ち出された、具体的な子どもを守る支援策についても評価しました。

４つ目には、災害対策の充実です。

浸水対策として高宮ポンプ場、古川雨水幹線の整備が始まりました。３年前の１４３ミリの大雨にも対応できる浸水対策として総額１５０億円10年計画です。

適正な職員配置で市民福祉向上へ

決算審査では、適正な職員配置を求めました。

寝屋川市の職員は上表のように削減して来ました。その結果、様々なところでひずみが出ています。

本来正規職員で対応すべき幼稚園教諭や学校給食調理など臨時的ではない業務でアルバイト対応が常態化している。

また、生活保護課ではでは国基準とされているケースワーカーの配置が行われていないと毎年のように国や府の監査で指摘を受けている状況となっている。今後、中核市への移行も踏まえて、市民福祉の維持向上に責任を果たすことが出来る職員体制を求めました。

正職員数、非正規職員数の推移

（単位：人）

	正職員	非正規職員	合計
平成18年度	1,755	678	2,433
平成19年度	1,669	740	2,409
平成20年度	1,604	704	2,308
平成21年度	1,498	761	2,259
平成22年度	1,415	732	2,147
平成23年度	1,330	727	2,057
平成24年度	1,274	706	1,980
平成25年度	1,215	689	1,904
平成26年度	1,183	674	1,857
平成27年度	1,148	701	1,849

各年4月1日現在　正規職員は教育長、一般任期付職員、再任用フルタイム勤務職員等含む。非正規職員は、再任用短時間勤務職員、任期付短時間勤務職員、非常勤嘱託職員、臨時的任用職員を計上。

寝屋川民報 議会版

発行
日本共産党
寝屋川市会議員団

072-824-1181
（内線2399）
FAX：824-7760
No.２８４４

石本えりな
太秦元町9－2－203
090-8937-1934

太田とおる
高柳2－49－2
080-3818-9722

中林かずえ
宝町4－33
090-3944-8385

西田まさみ
石津中町30－3
090-9713-3588

前川なお
萱島東2－16－11
090-1025-7503

減らない特養ホームの待機者
新たな施設の設置が必要

高齢者が安心できる介護保険へ
決算審査で太田委員が質問

決算審査特別委員会で太田委員は介護保険制度の適正な運営を求めました。

寝屋川市内の特別養護老人ホームの待機者数を示し、多くの高齢者が介護保険料を収め、介護保険をいざ利用しようと特別養護老人ホームに申し込みをすると、既に５００名を超える待機者がいて結局利用できない実態を示し、改善を求めました。市は特養ホームの新設など、高齢者福祉計画に沿った整備を進めたいと答えました。太田委員は、計画そのものを見直すことを含めて、高齢者の生活を支える制度となるように求めました。

介護認定は30日以内に
調査内容は情報公開を

また、介護認定について、要介護認定の結果が遅い実態を示し、認定前の介護保険を利用しやすくするために、一次判定の結果を知らせることや調査票の写しの交付を求めました。市は平均32日かかっていることを明らかにし、適切に対応していきたいと答弁しました。

国が介護保険の改悪を進める中、市として制度の維持改善に向けての努力が求められます。

平成27年度　単位：人

特養　待機者数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
延べ申し込み数	929	925	909	935	931	929	903	904	871	858	836	839
実申し込み数	538	541	548	559	553	552	542	543	535	527	514	512

大阪府政の今

松井一郎府知事（日本維新の会代表）や吉村洋文市長（大阪維新の会政調会長は大阪市此花区の夢洲（ゆめしま）での25年国際博覧会（万博）やカジノ誘致に突き進んでいます。誘致をテコに、新たな鉄道整備など巨大開発も狙われています。

万博会場の夢洲への鉄道整備等（地下鉄中央線延伸と輸送力増強等）の費用が６４０億円。その内、咲洲、夢洲間の鉄道建設費用は５４０億円で、国費64億円、大阪市一般会計64億円、開発者負担として市港湾局の埋立事業会計から２１２億円、鉄道事業免許を持つ大阪港トランスポートシステム（ＯＴＳ）が２００億円と、それぞれ負担することになります。

大阪市議会で日本共産党の小川議員は「この開発を推進する一方で、多くの市民が待望している地下鉄今里筋線の延伸は赤字になるから反対だという。無人島の大開発優先なのか市長の政治姿勢が問われている」と訴えています。

森議員 失職

10月６日、森ただひさ市議会議員が失職しました。

昨年４月の寝屋川市議会議員選挙で、大阪維新の会公認で、当選をした森ただひさ氏は寝屋川市に居住実態がないと訴えられました。最高裁が上告を棄却したことで、居住実態がないとの判断が確定しました。これで京都府城陽市に続いて２例目の大阪維新の会公認だった議員の居住実態がないことによる失職です。

次点の金子ひでなり氏が当選となりました。

議員日誌

太田とおる

決算審査が終わりました。毎回のことながら色々な事前準備に追われてぐったりです。一人75分の持ち時間ですが最後には2秒余すのみとなりました。

審査を通して改めて北川市政による市政の転換、改善を感じることができました。しかし、残念なことながら傍聴者がほとんどありませんでした。ぜひ、市議会への傍聴をよろしくお願いします。

決算が終わってから、橋の上の宣伝で決算報告をしています。前進面の評価と今後の課題を話しています。

課題は国保、介護保険料の引き下げから、子育て支援策のさらなる具体化、災害対策の前進など様々です。みなさんのご意見もお寄せ下さい。

地域でハンドマイクで宣伝も行っていますが、市政報告を聞きたいと呼んで下さればすぐに出向いてお話をしたいと考えています。ぜひお声掛けください。